

中国の農業に関する諺

周 美華[※]

生産の経験をまとめた諺を生産諺と呼ぶことができる。農業、林業、牧業、漁業等は皆それぞれの諺がある。しかし、数の一番多いのは農業に関するものである。

中国の農業生産の歴史は長い。氏族社会末期から奴隸社会初期まで中国の農業は比較的に進んでいた。三千年前の甲骨文の中に既に農業に関わる文字(例えば、“来”〈古い麦字〉, “米”, “田”, “圃”等)と農業生産に関わる占卜が見られる。たくさんの労働人民は長期間の生産実践の戦いの豊かな経験からまとめられたいろいろな生産に関する諺を作り出した。これらの諺は漢代の『四民月令』, 『田家五行』, 晋代の『毛詩草木虫魚疏』, 北魏の『齊民要術』等の記事が見られた。しかも、これらの諺は大勢の農民たちの間に伝承されており、次の世代へと継承されていた。繰り返して確かめたその多くは人々が自然と戦った中から獲得した正しい知識と客観規律に対する科学的知識を反映した。つまり、これは貴重な科学文化遺産であるといってもよいのではないだろうか。

本稿で農業に関する諺は直接に農業耕作と関係がある諺とする。ここには林業、牧業、漁業、気象等に関する諺を含めず、狭義に用いる。このような諺は数が相当に多く、『中国諺資料』を調査したところ、約40000の諺の中に農業に関する諺は5分の1を占めていた。これらの諺は田畑農作物生産に関する諺に属するもの、園芸野菜生産に関する諺に属するものに大別できた。そこで、本稿では『中国諺資料』を中心に農業に関する中国の諺を田畑作物と園芸野菜に関する諺の二つに分けて、日中の民俗比較において、必要であると考えられるものを選択し、若干の説明を加える。

※筑波大学大学院地域研究研究科

一. 田畑作物に関する諺について

田畑作物に関する諺は数が多く、内容が豊かで、色々な田畑農作物の成長、育成の特徴、農業技術措置に関して、具体的には、土壤改良、種の選択、耕作、種蒔き、施肥、水利、病虫害の予防、収穫、農具などの色々な方面に分類できる。以下この分類に従って、検討していく。

1. 土壤改良について

砂土培泥, 好的別提

砂土は柔らか過ぎると、肥料を蓄積する力は極めて悪い。水のみし込む力が強すぎるので、砂土を改良するには主にその土質構造を改良し、土壤中の腐植質を増やす必要がある。川の泥などは沢山の腐植質を含んでいたの、川の泥を混ぜるのは土壤改良の有効な方法の一つである。

冷土換熱土, 一畝頂二畝

熱土は長く、太陽に当たられて、含めた有機物質は十分に発酵。腐りを経て、土壌の中の肥料の効果が高まる。逆に冷土と呼ばれる。熱土を冷土に換えれば、或いは深く耕しを通して、表層の下の土壌の冷土を地表面に換えて、風化・熟化を経て、土壌の有効栄養成分を増やすことができる。その為に“一畝頂二畝”と言われている。

黒土混黄土, 増産一石五

異なった土壌を混ぜて、長所を取って、短所を補って、土壌質を改善し、水や養分等のしみ込む力と空気を通す力を高める。

鋪砂又換土, 一畝頂二畝

道理同上

2. 施肥について

庄稼百様巧, 肥は無価宝

庄稼一枝花, 全靠肥当家

積肥如積糧, 糧在肥中藏

鳥靠樹, 魚靠河, 庄稼望好靠肥多

以上に上げた四例は肥料の意義についてである。作物は芽から収穫まで肥料の栄養を吸収することが必要である。これらの要素は主

に炭素、水素、酸素、窒素、リン、カリウム、硫黄、カルシウム、ネシウムなどの元素である。炭素、水素、酸素は空気、水の中から摂取できる。硫黄、カルシウム、マグネシウム、鉄などは作物の需要量が少ない。

一般的に土壤の中に含めた量は需要を満たすことができる。ただ、窒素、リン、カリウム三つは作物の需要量が比較的によく、足りなくなりがちなので、施肥を通じて、補う。又、土壤は田植え後、元の栄養成分も消費されて、肥力が減少するので、よく施肥をしなければならぬ。肥力を補いさえすれば、作物が順調に育成、成長し、花が咲き、実になる。それで、“糧在肥中蔵”とよく言われている。

羊糞当年富、豚糞年々強

羊糞是土、上地如虎

豚糞肥、羊糞壯、牛馬糞兒跟着逛

以上の三例は豚の糞、羊の糞、馬の糞の肥料の効果の高低を評価したものである。これらの肥料は窒素、リン、カリウムの三要素と豊かな有機質が含まれている。又、牛の糞は腐りにくく、栄養の成分が比較的に逃げにくい。普通の場合で、施肥したら、肥が速く効けない。そうしないと、沢山の窒素が空气中に逃げ、肥力を減らす。豚の糞はこのような欠点がない。

3. 種について

千算万算、不如良種合算

良い種を選んで、相応しい地区と相応しい栽培の条件の下で田植えをすると、増産の効果が著しい。

種地選好種、土地多両莖

良い種を選んで、即ち、優良な品種を選んで、又、質の良い種を選ぶことを指す。

種子年々選、産量節々高

種を選んで、生涯にわたって使ってはいけない。どんな良い品種でも、選種に気を付けないと、時間が伸びれば、雑交、退化の現象が生じるかもしれない。また、違う地区と違う植物の種によって、良さと悪さの差異があっ

ても、当然の事であるが、毎年選種さえすれば、品種の優良性を保つことができる。

4. 水利について

水是庄稼血、肥是庄稼糧

多収少収在肥、有収無収在水

以上の二つの例は水の作物の成長、育成に対する重要性を指す。二つの基本的な条件である。作物は芽が出てから、花が咲き、実になる全過程に至って、作物は十分な水が必要であると同時に土壤の中の栄養成分も水に溶ける必要がある。そうすれば、作物の根毛に吸収される。光合成は水を必要としている。栄養成分の形成、運搬も水が必要である。もし水がなければ、作物の命がなくなるだろう。そのために“水是庄稼血”とよく言われている。

開溝挖塘坝加高、常年不怕旱和涝

これは水利措置を指す。溝を作って、水を引いて、排水する。池を作って、水を防ぐ。

風吹秧田水放干、雨淋秧田水満田

これは稲の灌漑の規律を指す。もし大風の時には田圃の水を流せば、稲の芽が壊れるのを避ける。それで、“風吹秧田水放干”。暴雨の時には雨の前に田圃の中一杯に川の水を入れる。川の水は雨の水より温度が高いからである。そうすることで、稲の芽が冷たくなるのを防ぐ。それで、“雨淋秧田水満田”と言われている。

一天三朝水、天天換清水、白天瓜皮水、晚上一拳水、天冷灌深水、天暖食露水、下雨灌深水、雨後放雨水、大風解決風杆水

車の水で、田圃を灌漑し、季節と気候によって、違う措置を取る。

5. 種蒔きについて

寧在時前、不在時後

一熟早、熟熟早

一熟豊収、熟熟豊収

以上の三つの諺は適当な時期に早く、種蒔きをすることを指す。いろいろな農作物は成長、収穫期がある。早く種蒔きができるもの

は早く収穫できる。種蒔き時期が適当に早いものが良い。だから、“寧在時前，不在時後”と言われている。何日か遅れて、種を蒔いたら、農繁期に間に合わなく、収穫に影響するかも知れない。また“人誤一天，地誤一年”という諺がある。

浅溝高粱深溝麦，豆子何用蓋不蓋

これは種蒔きの深さを指す。作物が違えば、種を蒔く深さも違う。また、例えば、“一指高粱半指谷”と言う諺がある。高粱は麦と比べると、高粱のほうが浅い。それで、“浅溝高粱深溝麦”と言われている。

稀谷密麦大撰豆子

麦子稠子一扇墙，谷子稠子一把糠

この二つの諺は種蒔きの疎密を指す。作物によって、疎密が違う。

播種不過清明閏，移栽不過立夏閏

清明浸種，谷雨落秧

以上の二つの諺は早稲の種蒔きの時期を指す。

芒種芒種，様々要種

過了芒種，不可強種

芒種は芒がある晩谷作物の種蒔きの大切な時期である。各地の具体てきな時間は早くても、遅くても、ほとんど芒種を期限とする。

6. 耕作について

深耕加一寸，頂上一茬糞

耕地深又早，庄稼百様好

秋後不深耕，来年虫生子

以上の三つの諺は深耕の意義を指す。深耕は全耕作措置の中の基本的なものである。深耕は土壤を柔らかかにでき、土壤構造を改善でき、土壤の浸水力、通気力を強化し、土壤の中の有効養分を増やす。深耕を通じて、土壤の中に隠れている害虫を地表に追いやり、駆除も容易になる。それで、“深耕頂上糞。”又、耕作は秋の耕作と春の耕作に分けられた。いづれにしても、できるだけ時間がかかるので、早いほうがよい。土壤構造を改善するには十分な風化時間がかかる。深耕は貯水を利用し、

害虫を駆除する役割があり、早く施行する。それで、“耕地深又早，庄稼百様好”と言われている。

八月耕地一簍油，九月耕地半簍油，十月耕地没有油

秋の耕地の時間が早いかによって、効果上、大きな差異があるので、早耕のほうがいい。

五月犁田是地金，二月犁田是地銀，三月犁田是快鉄，四月犁田是個亀

春の耕作は早いほうが良いことを指す。

秋耕要深，春耕要浅

深耕とは適当な範囲の中の深さを指す。深ければ深い程、良いとは限らない。又、春耕と秋耕と比べると、季節によって、深さも差異がある。秋耕は下層の土壤を地表に翻し、十分な時間をおいて、風化させる。春耕は種蒔きの時間に近く、下の土壤を地表に翻した生土の風化時間が比較的短く、春耕は秋耕より適度に浅い。もし、深く翻せば、表層の土壤の有効養分が足りなくなって、春の種蒔きの作物の成長に影響する。それで、“春耕要浅”と言われている。

麦鋤三遍面充闊，瓜鋤八遍瓜上走；谷十遍餓死狗

これは中耕回数の多いほうがよいことを指す。

頭遍浅，二遍深，三遍把土攏到根

これは中耕の深浅の一般的な規律を指す。初めての鋤は浅いが、二遍の鋤は深い。だから、また、“頭鋤皮，二鋤泥，三鋤四鋤花離離”の言い方がある。

谷鋤深，麦鋤浅，豆子露着半個臉

中耕の深浅も作物によって、違う措置を取る。違う作物は深浅の区別がある。

谷鋤寸，豆鋤莢，高粱玉米鋤喇叭

作物が違えば、中耕の管理の時期も違う。谷は芽になって、しばらく経ったら、中耕をする。豆が実になるとき、中耕の必要がある。高粱、玉蜀黍は穂になるとき、中耕を強化しなければならない。

早鋤地皮澇鋤根，不早不澇鋤半寸
早魃，水害の状況が違えば，中耕の方法も
違うわけである。

7. 病虫害の予防について

有虫治，無虫防，庄稼一定長得好
これは病中害の防止対策の意義を指す。
種子不消毒，別怨苗不出
用藥来拌種，麥苗不遭虫，不用藥拌種，蝻
蛄吃不停

この二つの諺は消毒，薬を混ぜる方法で，
病虫害を予防することを指す。

治虫治病没巧，治早治早治小
冬天把田翻，害虫命帰天
若要害虫了，捕捉藥殺不可少
以上の諺は殺虫の方法を指す。殺虫駆除を
早く行えば，被害は小さくて済み，その繁殖，
蔓延を防ぐ。

百治不如一防
色々やってみるよりも予防の方がよい。

8. 収穫，貯蔵について

秋収四忙：割，打，干，蔵
これは秋の収穫の順番を言う。
地不去穗，場不去粒
これは収穫の時，穂と粒を収穫するように
しなければならないことを言う。
早稲白露前，晚稲白露後
麥到芒種谷到秋，甘露才把甘薯収
処暑収黍，白露出谷
花見花，四十五日捉綿花
花見花というのは綿花の花が咲く頃を指す。
これらの諺は色々な作物の収穫の季節を言
う。

二. 園芸野菜に関する諺について

園芸野菜に関わる諺の数は田畑作物に関わ
る諺と比べると少ないが，様々な野菜の種蒔
きから収穫までに関わる知識と経験が色々な
諺にまとめられている。

1. 園芸経済価値について

一畝園抵三畝田

多種一園菜，等于一倉糧
園戸園豊，園田就是搖錢樹
三棵菜，一斤糧，多種疎菜好度荒

野菜生産は農業生産の中に，当然次の地位
を占めているが，その単位面積の売上が田畑
作物に比べると，高いのである。だから“一
畝園抵三畝田”と言われている。

2. 様々な野菜栽種の季節について

栽蒜不出九，出九長独頭
二月二，黃瓜茄子都落地
三月三，丝瓜葫芦都露尖

中国各地の気候がそれぞれ違うので，野菜
栽種の季節も各地に差異がある。しかし，色々
な野菜の種蒔きの早さの順番は相対的に変わ
らない。春の種蒔きをスタートとして，普通
の野菜の中で，人参が一番早く，白菜が一番
遅い。上海の農諺で，“処暑萝卜白露菜”と
言う言い方がある。

3. 野菜種植えの方法について

辣子栽花菜栽芽
煙栽葉，茄栽花
菜不移植不發，牛無夜草不肥

ある野菜は移植が必要である。この幾つか
の諺は移植の適当な時期を言うのである。野
菜は芽が出たあとに，移植できる。茄子，唐
辛子は幼芽の花が咲く時，移植するほうがい
い。

深栽茄，浅栽葱
深栽芋頭，浅栽姜

野菜の種類が違って，田植えの深さが違う。
茄子は葱と比べると，茄子のほうが少し深い
が，葱のほうが浅い。

三天萝卜四天菜

これは萝卜，白菜の種蒔きをした後に，芽
が出る時間を指す。

4. 園田の管理について

種田不用問，全靠工夫水糞
要想吃疎菜，澆水要勤快

園田生産は田畑耕作よりもっと水，肥料が
かかり，工夫もいる。だから，また，“若要

心不開，赶馬種菜園”と言う諺がある。

南瓜不打杈，光長蔓来不結瓜

金瓜要摘枝，南瓜要摘頂

要想吃大蒜，地要挖八遍

違う野菜は時に違う管理方法を取る。

要想白菜好，多澆人糞尿

要想韭菜盛，只要灰来墊

野菜の種類が違えば，肥料を必要とする状況も差異がある。

5. 野菜の実がなる収穫の季節について

夏至不刨蒜，蒜在泥里爛

霜降不起葱，越長心越空

立冬不砍菜，必定要受害

以上の諺は色々な野菜の実がなる，収穫の季節をまとめてある。

6. 野菜の新鮮さとその特徴について

韭菜黃瓜兩頭香

兩頭は春秋兩季を指す。韭は春芽が出たばかりの新しい芽と秋出た晩芽が美味しいが，胡瓜も結んだ新しい瓜と秋結んだ晩瓜が一番美味しい。

花下韭，臭死狗

六月の韭が美味しい。

凍不死的葱，干不死的蒜

葱は寒さに強く，大蒜は乾燥に強い。

漬不死的白菜，旱不死的葱

白菜は水に耐える力が強いが，葱は早に耐える力が強い。

氷凍拉々響，夢卜泥里長

夢卜とは人參を指す。人參は寒さに強い。地表が寒くても，地下で成長できる。しかし，もし温度が零下になったら，成長できない。

おわりに

中国は土地が広大で，人口が多い。過去何千年もずっと農業立国である。そのために農業に関する諺の歴史が悠久で，数も多く，広く伝承されている。深く，広い経験と知識をまとめた農業に関する諺は漢民族の人々が行う農業生産の特徴を反映していた。これらの農業に関する諺はいままで広大な農村で地区，季節によって，農業生産に生かされてきた。中国の伝統的な生産経験を日本と比較し，研究していくうえで，意義があると考えられる。

謝 辞

本稿の作成にあたり，原 秀成先生（図書館情報大学図書館情報学部）の校閲を受けました。感謝致します。

参考文献

1. 『諺語手冊』中国青年出版社 王 常在編
2. 『中華諺語誌』朱 介凡編著
3. 『支那農業氣象諺集』財団法人東亞研究所
4. 『中国農諺』農業出版社
5. 『諺語』内蒙古人民出版社 武 占坤。馬国凡編
6. 『中国諺資料』

新刊紹介

稲村 務編

『国際哈尼—阿卡文献一覧』

民俗・民族研究の基礎となる研究文献の整備が各方面で進むなかで，ハニ族を研究する稲村氏（筑波大学歴史・人類学研究所）が現時点でのハニ族研究の集成を一冊にまとめた。The International Bibliography on Aka-Haniと題され，英文・中文・日文論文にすべて英文タイト

ルを付し，研究者の便宜と国際研究への寄与を目指した文献案内となっている。希望される方は残部があるようなので直接，著者に問い合わせを願いたい。

1996年3月刊行 A4判 72頁 私家版